

令和6年度 小林市立小林小学校 学校関係者評価書

| 4 段階評価      4    期待以上    3    ほぼ期待どおり    2    やや期待を下回る    1    改善を要する |   |   |  |          |           |  |
|---|---|---|--|----------|-----------|--|
| 学校経営<br>ビジョン  |   | 一人一人の思いを受け止め励ましながら「賞賛・承認」することにより、自分に自信をもち、自ら考え行動できる子どもの育成を図るとともに、保護者・地域との協働による教育活動を通して活気あふれる学校をめざす<br>「みんなで考え みんなでつくる みんなの小林小学校」  |  |          |           |  |
| 項目  | 本年度の重点目標と<br>目標達成のための手段   | 結果の考察・分析及び改善策等  |  | 自己<br>評価 | 関係者<br>評価 | 学校関係者のコメント   |
| 知<br>育  | ■ 主体的な学びと確かな学力の定着「学ぶ教師の姿を子供の姿で証明しよう」<br>■ 手段・ゴールイメージ<br>1 個人・グループ研究による授業改善<br>2 「学びたい度」の更なる向上<br>3 個別指導充実のための I C T の有効活用<br>4 地域人材や新聞を活用したキャリア教育の充実<br>5 家庭と連携した正しい鉛筆の持ち方の全校的な指導<br>6 新聞投稿、作品コンクール等への積極的参加<br>7 個に応じた指導と見通しをもった特別活動教育の充実 | ○ 昨年度からの継続で一人一研究授業の実践を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んだ。各個人の研究課題毎にグループ研究を行い、協働な学びと全体での共有化を図り、授業力の向上につながった。<br><br>○ 時数不計上の時間（全校集会等）の最後の10分間を活用して、全校一斉に学力向上の時間を設定した。各 学年で工夫した内容に取り組みせ、基礎学力の向上につながった。<br><br>○ 「小林小お昼のニュース」のコーナーで毎日、様々な分野のニュースを取り上げたことにより、児童の地域社会への関心が高まった。<br><br>○ 児童、教師ともにタブレットの日常的な活用が図られ、児童の学力の向上へつながった。また、 A I ドリル型の教材を取り入れたことで、家庭学習の充実にも効果を発揮することができた。<br><br>○ 鉛筆の正しい握り方については、継続した指導を行い定着する傾向にある。<br><br>○ 地域の人材や教育資源を積極的に活用し、福祉学習、ふるさと学習、キャリア教育等に計画的に取り組むことができた。小林小まつりでは、地域の人材を活用し充実した体験活動ができた。<br><br>○ 作文、図画、俳句など多様な作品コンクールに積極的に応募して多数の賞を受賞した。 |  | 3.0      | 3. 1      | ○ 社会の変化に伴い、学校で教えるべき内容が増えています。思考力育成を目指した探究活動や基礎学力定着のためのドリル学習など、児童の実態に応じて、タブレットの利活用、活字による学び、読書の推進など、多彩で多様な学習指導方法を研修していただき、児童の確かな学力の定着と向上を図っていただきたい。<br>○ 一人一研究授業も戦略的、対話的、深い学びを実現しようとする姿勢は教育現場にとって非常に重要だと思います。教育の質を向上される為の努力、ともに素晴らしいことです。<br>○ 様々な工夫を凝らし子供たちの学習への意欲や、学力向上につながったことは素晴らしいと思う。また、ICTの活用により更なる業務の効率化は子供たちの学習への関心も期待される。同時に情報化社会の中で子供たちが正確な情報を見極める力（情報リテラシー）を鍛える教育も今後必要になってくると思う。<br>○ キャリア教育についても児童期に合う内容を今一度考え、地域の方々と一緒に様々な体験・講話などを通して進めていくとよい。<br>○ 「小林小お昼のニュース」等で世間のことに関心を持つようになることは大切なことであり、地域社会に興味を持っていくように指導してほしい。<br>○ 「お昼のニュース」では知らなかったことを知り、興味を持ち人の声に耳を傾けることのできる子供に育っています。いろいろなことを知ることで情報が入り、地域への関心度も高まりとてもよい取組です。<br>○ 以前より、地域と児童のコミュニケーションや地域への関心をどう深めていくかと議題にも上がっていたが、お昼のニュースや小林小まつりの実施で関心が高まったのはとても素晴らしいことだと思います。<br>○ 昨年度からの継続として取り組まれていることや指導が多く見られ、その結果として学力向上、地域社会への関心を持っている児童が育っていることに、「継続は力なり」を感じます。今後もなお一層の向上を期待します。<br>○ 学校に行くことが楽しいと感じ、「学びたい」気持ちで登校し、学校では友達があり、先生があり、給食があり、わくわくしながら通学できることがとても大事です。<br>○ 鉛筆の握り方はよくなっている子供が多く見られました。<br>○ 作品コンクールに出品することで自信をつけ、多くのことが得られています。 |
| 徳<br>育  | ■目標 互いを認めよい行いを実行する力の育成<br>「『自分のことが好き』と思えるまで子供を支えよう」<br>■手段・ゴールイメージ<br>1 「称賛と承認」によるポジティブな行動支援の具現化<br>2 「学校に行くのが楽しい」の意識向上<br>3 いじめにつながる行動の早期発見と継続的な対応<br>4 不登校・傾向児童の早期対応と多様な学びの場の工夫<br>5 「自分のことが好き」の意識向上<br>6 地域協働活用の活性化と人間関係づくり            | ○ 研修等を実施しながら日常の学校生活において称賛と承認による行動支援に取り組んだことにより、あいさつや会釈、そうじなどに変容が見られた。<br><br>○ いじめの未然防止の取組については保護者と教師の意識に差が見られる。いじめの未然防止、早期発見、対応に全職員で取り組み、教師を始め児童の人権感覚の醸成を図っていく。また西諸みんなで人権を考える取組を学校全体で取り組むとともに家庭とも連携することで、人権意識を高めることができた。。<br><br>○ 毎月のこすもす委員会で気になる児童の対応を協議し、組織的対応を図ってきた。今後も継続した見届けを行いながら生徒指導の充実を図っていった。<br><br>○ 不登校、不登校傾向の児童について、適応指導教室、S S W等関係機関と連携しながら対応してきたが、昨年度の比べ不登校児童数が増加した。よい方向に改善が見られたりした児童もいるが、今後は、校内に多様な居場所づくり、学びの場を設定して支援を継続して行う必要がある。<br><br>○ まちづくり協議会と連携した「シン・小林小まつり」を実施し、地域学校協働活動の活性化が図られた。まち協が企画から携わり、当日の運営もスタッフとして参加していただき、昨年度より内容が充実した祭りを実施することができた。 |  | 3.2      | 3. 2      | ○ 下校時には大きな声でよくあいさつができていますが、登校時の朝の挨拶は元気のない子供たちが見受けられます。朝少し早起きすることが頭も体も元気になり登校をすることができる。家庭との連携が必要である。<br>○ 全国の自殺者は減少するも小中高生の自殺者は増加している。いじめについても何より早期発見が大事である。親が常に子供と会話をし、何でも話せる環境をつくり子供の変化を見逃さないことが最善であると思う。そのために日頃から親子であいさつをする習慣をつけるなど意識向上をすべきだと思う。<br>○ いじめ、不登校児童への対応について、全職員での取組が確立していることはありがたいことである。様々な事情で学校にいけない時期があるのは、やむを得ない面があると思う。ただ学校生活は、多様な個性を持った友人と交流し、協調性や社会性を育てていくために重要な場であることを保護者にもきちんと説明して協力してもらう体制を維持して更なる改善を図っていただきたい。<br>○ いじめの未然防止に向けて全教職員が協力し教育と家庭が連携することで、人権意識を向上させる取組は非常に効果的だと思います。人権感覚の育成は学校全体の取組と家庭の共同が必要不可欠です。<br>○ いじめには細心の注意をはらい、早期の対応をお願いしたい。   |

|  |  |  |  |  |   |
|--|--|--|--|--|---|
|  |  |  |  |  | <p>○ 称賛と承認は子供に限らず誰もが得たいものです。学校がその行動支援に取り組まれたことは、とても意義のあることだと思います。相手を認める行為は、いじめや不登校を減らすことにもつながるのではないのでしょうか。</p> <p>○ 「シン・小林小まつり」等で地域の人材を活用することで、大人の経験と知恵を学んでいけるようになるのではないだろうか。</p> <p>○ 「シン・小林小まつり」では地域の方々の協力もありいろいろな体験ができました。これからも地域とのふれあひが必要です。地域の方々も子供たちから元気を頂いております。</p> <p>○ 地域の中の多様な人材（人財）、地域資源、団体と連携して、様々な行事が進められてきた。行事ができたことは評価できるが「地域がつくる学校 学校が地域をつくる」視点から改善策はないかと考えています。学校運営協議会の存在も形骸化してきているように感じています。</p> |
|--|--|--|--|--|---|

| 項目                   | 本年度の重点目標と<br>目標達成のための手段   |  | 自己<br>評価 | 関係者<br>評価 |   |
|----------------------|---|--|----------|-----------|---|
| 体<br>育               | <p>■目標 体力向上と安全・健康への意識向上 「健康のための習慣づくりをみんなで実践しよう」</p> <p>■手段・ゴールイメージ</p> <p>1 多様な運動遊びを取り入れた活動の工夫</p> <p>2 小中の連携によるむし歯治療率の向上</p> <p>3 落ち着きと規律ある集団行動の再指導</p> <p>4 学習・生活指導における「立腰」の徹底</p> <p>5 健康生活への機運を高める取組と一人一人に応じた指導</p> | <p>○ 本年度は体力テストを全校縦割り班で編成して実施した。測定にやや難があり、正確な数値が反映されていない可能性がある。来年度に向けて改善する。</p> <p>○ 小中連携の取組として、むし歯治療率向上に取り組んだ。昨年度よりも治療率はアップしたが今後も家庭と連携しながら、むし歯治療率向上への取組を継続していく必要がある。</p> <p>○ 本年度も毎月、全校集会を実施し、継続して指導してきた結果、落ち着いて話を聞く態度が身に付き、規律ある集団行動が定着してきた。</p> <p>○ 立腰指導の徹底を図ったことで、授業開始、終了時など全校統一した取組を継続した結果、成果が表れつつある。</p> <p>○ 昨年度に引き続いて、12月に学校保健委員会として、学校薬剤師、歯科衛生士、保健センター、給食センター等と連携して、体験型の健康ブースを設置して「こば小健康フェア」を実施した。親子で79名の参加者があり、健康生活について意識を高めることができた。やや参加者の減少が課題となり、広報活動をより図りたい。</p> | 3.0      | 3.2       | <p>○ 縦割班での体力テスト、面白い試みですね。正確な測定の向上に向けて改善策を検討するのは来年度に向けてよい一歩だと思います。</p> <p>○ 登校時の車での送迎をよく目にします。体力低下の要因のひとつになっているのでは。</p> <p>○ 体育について体力向上と健康への意識向上は重要であり、特に学童期の運動は体力をつけるだけでなく、良質な筋肉や骨の発達、運動能力の向上、精神的にも非常に大事である。近年、ゲーム等の普及により外で遊ぶことが減っている。学校、保護者と協力して日常生活の改善をできればよいと思う。学校では、なわとび月間などの運動を取り入れた取組をしてもよいと思う。</p> <p>○ 運動会では開催時間は短くなりましたが、先生方の工夫がされており、子供たちも一生懸命取り組んでおりました。</p> <p>○ むし歯治療率が昨年度よりアップしたことはよかったです。さらに、関心や意識が高まるように家庭との連携、子どもたちへの働きかけをお願いしたいです。</p> <p>○ むし歯治療の取組は、保護者との連携が必要であり歯の大切さをもっと広めていくことで意識向上につながります。</p> <p>○ 登校時の様子は以前より活発になったように感じる。体力がついてきたのではないだろうか。ただ、依然として自動車通学の児童が多い。</p> <p>○ こば小健康フェアが継続的にされていてとてもよいと思います。</p> |
| 食<br>育               | <p>■目標 望ましい食習慣と食への感謝の心の育成 『食』と自分の成長・健康に目を向けさせよう」</p> <p>■手段・ゴールイメージ</p> <p>1 弁当の日を活用した食への関心を高める指導の工夫</p> <p>2 食と地域産業に関わる地域人材の活用</p> <p>3 適切な量を食べきる習慣</p> <p>4 食物アレルギー児童に係る事故ゼロの取組</p>                                   | <p>○ 家庭との連携を図り、本年度もタブレットにワークシートを配布し、タブレットでもまとめることができるように工夫したことにより保護者の弁当の日に対する関心も高く、協力的であった。</p> <p>○ 食育掲示板を工夫するとともに、給食センターで給食を調理する様子や農産物の生産者へのインタビュービデオを上映したりしたことで、地産地消への関心が高まった。また、給食の残菜率も下がってきた。</p> <p>○ 栄養教諭が、給食時間にはしの持ち方指導を行ったり、学級活動で授業に入ったりすることで、食育の充実が図られた。</p> <p>○ 食に関して、食育の理解を図る場を設定し、家庭との連携を図りながら、地域も巻き込んだ食育活動、イベントなどを考えていきたい。</p>  | 3.2      | 3.2       | <p>○ 食への育成や給食センターの情報開示など様々な取組みによって、地産地消への関心が高まり、給食の残菜率も下がってきているのはとてもよいことだと思います。こうした取組は、今後も続けてほしいです。</p> <p>○ 弁当の日の取組は食への関心を高める効果があると思う。世界の食糧事情を知ること大事だ。</p> <p>○ 肥満の子供たちの改善については、学校給食で効果を上げているようですが、夏休みなど家庭での食改善が必要です。学校と家庭との連携が大事です。</p> <p>○ 食育の掲示板活用等、よく工夫されています。</p> <p>○ 食育掲示板などの工夫は食育への理解と実践の促進に役立ち素晴らしい取組だと思います。食育の理解を深める場を設定することで家庭もそうだが、地域全体の健康意識が高まると思います。</p> <p>○ 食育について学校は様々な工夫をし、アプローチをし、実践し、子供たちの食について家族で考える時間等を設けるなど意識を高め、取り組んでいく必要がある。また、世界の貧困国の食糧問題の現状などを学び、食への感謝の心を育てていければと思う。</p>   |
| 次年度の方向性についての<br>校長所見 | 全体  | 「自分のことが好き」な子どもたちを育てるために、本年度も様々な工夫をしながら教育活動を行ってきた。一つ一つの取組が子どもたちの成長や学校愛、郷土愛につながるものであったかを検証して、引き続き教育目標の実現を目指したい。<br>授業改善については、教師一人一人の真摯な取組が見られるが、各種学習調査の結果を見ると、児童の学力の向上については、引き続き取り組むべき重要な課題である。各学年の学習の中で身に付けるべき内容を重点的に指導するなど年間を通して、計画の見直しにも取り組みたい。   |          |           |   |
|                      | 徳育  | 問題行動も少なく落ち着いた学級の雰囲気が保たれているが、学校に通えない児童や友達関係に悩む児童は少なからずいる。S CやS S Wとの連携を図りながら一人一人への丁寧な対応とともに、教育活動の充実を図り楽しい学校づくりに努めたい。  |          |           |   |
|                      | 体育・食育   | 給食活動や弁当の日の取組の充実を図ってきた。取組が先行して、「食の大切さ」や「食育の必要性」の理解啓発が不足していたのではないかという反省もある。家庭生活にも深く関係することであるので、保護者や地域と連携して取組のさらなる充実を図りたい   |          |           |   |